

目指す学校像	生徒一人ひとりの「よさ」を伸ばし、次代をたくましく生き抜くための学力と規範意識を身に付けた人間を育てる
--------	---

重点目標	1 生徒一人ひとりに見合った学習環境を提供し、基礎学力を確実に向上させ、自ら考え、判断し、表現する力につなげる 2 生徒一人ひとりの資質を把握し、個々に目標・目的を持たせ、規律ある学校生活を送らせる 3 積極的な広報活動を行うとともに、保護者・地域・関係諸機関との連携を強化する
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	9名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価（2月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】授業に真剣に取り組み、進路実現に向けて目的意識を持って意欲的に学校生活を送っている。ICTを活用した授業も進んできている。</p> <p>【課題】生徒の多様化が進み、知識技能の差や規範意識の涵養に幅が見られる。基礎学力の定着は引き続き課題であり、社会人として適切な生活を送るための力や目的意識を高める必要がある。卒業後の生活を見据え、資格認定の取得や目標を高くした進路の実現で自信を持たせていく。</p>	<p>○基礎学力の定着する授業実践と授業研究を行い、具体的な（ICTの活用等）方法も活用して学力を向上させる。</p> <p>○朝学習、補習等の講座へ参加者を増やして基礎学力の定着につなげる。</p> <p>○資格取得の意義を説明し、生徒の資格取得を促して受験者を増やす。</p>	<p>①基礎力テストを活用し生徒の学力を把握し教職員研修を実施する。前年度からの目標値を基に、数値を伸ばす指導、授業改善を行う。</p> <p>②具体的な指導を行い、知識の定着につなげる。基礎固めの補習を実施し、学習に向かう雰囲気作りを行う。実力増進講座、授業公開等、授業研究会等質の高い効果的な取組を計画実施する。</p> <p>③年間を見通し早い時期から進路指導を行う。進路見学、小論文や面接に対応できるよう系統的に幅広い知識を身に付けさせる。</p>	<p>①「授業が理解できている」という生徒の割合90%以上。</p> <p>②補習へ参加する生徒の人数を昨年度よりも増加させる。また、欠点を取る生徒は減少したか。</p> <p>③年間で資格テスト受験率一人1つ以上を目指し、生徒の個々の受験の割合30%以上。また、合格者数を上げる。</p>	<p>① 授業が理解できている割合は80%以上と90%以上には届かなかったが、ICTを活用した授業実践が向上し、興味・関心を持って取り組めた生徒が多かった。基礎力診断テストはBゾーンが増加し、D3ゾーンが減少した。</p> <p>② スタディウィークが今年度から始まり、参加する生徒が多く見られた。補習については、職員が目的的に実施できた。授業研究委員主体に授業公開、研修会を2回実施できた。</p> <p>③ 漢字検定が1学年、2学年全員実施となり、資格取得に向けて学校として取り組めた。他の資格は、まだ数としては少ないだけでなく、受験料も高額なため、課題は今後も残る形となった。</p>	B	<p>発達や特性のある生徒も多いため、生徒の実態に即し巡回支援やカウンセラーの支援を有効活用する。一方で学習能力の高い生徒のモチベーションを維持する必要がある。の意見を踏まえて対応する。</p> <p>スタディウィークは、現状の把握に努めるとともに、生徒への周知を一層強くし、参加率を高めていく。</p> <p>資格取得は、引き続き実施に向けて取り組む。漢字検定以外の資格取得も入学時から利点を生徒・保護者に周知していく。</p>
2	<p>【現状】校則を生徒の多くが遵守し、落ち着いた生活を送れているが、主に学外での自己管理が徹底できない生徒も見られている。</p> <p>【課題】生徒ひとり一人の資質や理解力を把握し、人権に配慮した対応、家庭と連携し個に応じた指導の対応等の徹底が求められる。春日部特別支援学校宮代分校との合同行事や授業交流を行い、本校生徒・保護者のインクルーシブ教育への理解を深める。</p>	<p>○家庭と連携し、年度当初、面談期間等を活用して校則周知の徹底を目指す。個に応じた指導を徹底する。</p> <p>○魅力ある学校づくりを実践し、学校生活を充実させる。教育相談の充実と情報共有を徹底する。</p>	<p>①時間を守る意識をSHRや集会で呼びかけ、生活習慣を確立し落ち着いた学校生活を送れるよう支援していく。長欠と欠席者について教務上のサポートや保健関係の講演会を実施する。</p> <p>②目的を持って部活動に参加できるよう内容を工夫し80%以上加入を維持する。</p> <p>③進路行事に加え、一人一人の進路への理解を深める面談を行う。また、探究活動に加え、社会体験やボランティア活動を増やす。</p>	<p>①遅刻・欠席・早退者、生徒指導の件数を昨年度比20%減少させる。</p> <p>②部活動への参加者を増やす。また、教育相談は有効であったか。</p> <p>③人間性向上に役立つインクルーシブ教育を充実させ、講演会や分校との連携事業を、定期的実施する。</p>	<p>① 職員全体が生徒の遅刻・欠席・早退について課題を共有し、生徒に働きかけていくことができた。学年集会でもそれぞれ取り上げて課題解決に努めた。</p> <p>② 部活動を辞めた生徒が、他の部活動に転部して活動できるようにするなど、部活動への取り組みを維持できるように指導した。</p> <p>③ 分校との連携事業は昨年度を維持し、講演会にも分校が参加して共に学ぶ機会を設けることができた。行事について、今年度も修学旅行と一緒に実施して過ごすことができた。</p>	A	<p>次年度も機会をとらえて遅刻・欠席・早退の課題について生徒に丁寧に説明し、減少に向けて取り組む。</p> <p>部活動は取り組む意義と継続することの大切さなど丁寧に今後も説明し参加率を高める。</p> <p>分校との交流は年々定着してきているが、交流から協働的な活動に少しずつ発展した取り組みに繋がっていく。</p>
3	<p>【現状】生徒会、部活動が中心となって地域（宮代町、町教委、自治会、商工会）交流を行っており、参加行事も増えてきた、豊かな人間性や社会性の育成、異校種交流が図れている。</p> <p>【課題】近隣地域から遠方地域へにより活動の幅を広げていく事で生徒の活躍と宮代高校の周知を図っていく。様々な本校団体が地域と関わっていくことで開かれた学校づくりの推進を図っていく。</p>	<p>○近隣地域との連携を強化し、交流事業の深化とHPによる遠方地域への学校案内の充実を目指す。</p> <p>○中学生、保護者に魅力ある情報をHPをはじめ、SNSなどを活用して入学希望者の獲得につなげる。</p>	<p>①生徒会や部活動で地域交流活動に参加し、生徒の活躍を積極的に広く周知する。地域から信頼される学校づくりを実践する。</p> <p>②HPは本校生徒・保護者の活用できる内容（資料等）を増やし、学校への興味関心を引き付ける。電子掲示板による情報提供をおし、生徒・保護者・地域の方が本校をより理解できる環境とし、校内活性化、明るい学校にする。</p>	<p>①近隣小中学校等との連携活動、地域交流や地域貢献活動等、生徒の活躍の場と機会を増やす。</p> <p>②HPは、学校行事や学年の取組、部活動等、内容を充実させる。生徒・保護者連絡は電子で効果的に適宜発信する。関係諸機関との連携を大切に</p>	<p>① 今年度は地域から依頼のあった取り組みについて、ほぼ対応することができた。埼玉の子ども70万人体験活動に2部活が対応し、小学生との活動を行うことができた。進路では高大連携で3大学との連携協定を締結することができた。</p> <p>② 今年度はInstagramを学校として開設し、学校の情報を発信できた。ホームページの校長日誌がほぼ毎日更新され、学校の様子を発信した。一斉メールを有効に活用し、保護者への情報提供がスムーズに行えた。</p>	A	<p>地域貢献は継続して行い、他地域からの依頼も引き続き積極的に応えて本校の周知に繋がった。</p> <p>高大連携の協定を締結できたので、内容を精査し授業支援や大学講義体験等将来に結びつけて有効に活用していく。</p> <p>塾対応研修会、Instagramの活用など、今年度の取り組みを次年度に引き継ぎ、学校の周知に役立てていく。</p>

学校関係者評価	実施日 令和8年 1月23日
学校関係者からの意見・要望・評価等	学校全体の一体感が感じられている。メモを取る指導や大学を知ってもらう工夫、高大連携の状況から、非常に学校に期待感を持つことができた。進路先の多様化は、指導の大変さを感じるが、各学年段階を追って指導していることが分かった。1学年で学年内進路指導、2学年で大学（進学）、就職等分野を決めている。3学年では、進路決定に向けて進んでいるが、1学年、2学年の積み重ねを受け、年度当初に進路を再確認し、指導に当たっている。今年度は2学年後半から視野を広げ、大学進学や看護系などと決めていく生徒が多かった。 スタディウィークは、3教科で行うことが多かったため教科を生徒が選んで取り組めると良い。補習内容が分かるとより生徒が参加しやすくなると思われる。
中学校から上がった生徒が数名いるが、勉強面、部活動の面でも面倒をよく見てくれていると感じている。3学年同じ手帳を使っており、普段の学習はもちろんだが、就職試験や進学にも活用できると感じる。現場では挨拶、掃除、メモをとる、この3つが大事なもので、卒業後も徹底していただけると良い。宮代分校との交流の場があるのは、分校のある学校ならではの利点である。お互いにコミュニケーションを取ることで双方にとって学ぶ機会にもなる。引き続き行事等でお互いに協力しながら良好な関係が築けると良い。宮代高校と宮代分校が協働して地域貢献してくれたい。	
Instagramを開設して少しずつ周知されてきている部分がある。生徒にはまだ十分に知られていない面があるので、校内周知も含めて、内外ともに有効に活用していけると良い。地域連携では、宮代町の催し物で宮代高校が活躍している部分がよく見られた。引き続き様々な団体が関わっていけると周知や町の活性化にもつながる。宮代高校で頑張っていることを活用して、近隣地域の依頼に応じてさらに宮代高校の周知や活躍に繋がっていくとよい。	